

内田樹 ▲ 内山節 ▲ 藤田一照 ▲ 星野文紘

TATSURU UCHIDA × TAKASHI UCHIYAMA × ISSHO FUJITA × FUMIHIRO HOSHINO

賢者たちの対話

土地に生きる  
知恵といのち

それぞれの「道」に生きる

Ideha Cultural Museum

いでは文化記念館

オンライン参加も  
可能です

2023.5.13 SAT. 13:30-16:00 13:00 open

開演前に  
和太鼓演奏  
有り

こよなく出羽三山を愛し、それぞれの道を進んでいる方々から、自由闊達にお話いただきます。

かつて日本列島には、人間社会のなかでうまく立ちまわることのできる「スマート（利口）な知」とは異なる「自然のなかに生きる野生の知」が息づき、世代を超えて伝承されてきました。山伏とは、それを森羅万象のいのちの思想と結びつけ、体現してきた存在です。山伏は、自然のなかで「知恵といのち」を学び修めることで「修験者」となり、祈りと修練によって、人びとの暮らしのなかに共生のロジックを表現してきました。

近年、世界的に目覚ましい発展を見せているAI（人工知能）やスマートシティの可能性は、スマートフォンから人工衛星までさまざまなレベルで実装され、私たちの生活をより豊かに、便利なものにしています。他方で、このような「スマートな知性」では抑え取ることのできないものとして、ローカルな現場に生きている知恵の思想、私たちの身体の内側に宿るいのちの感覚が、世界的に再発見されつつあります。

今回のシンポジウムでは、思想家の内田樹氏、哲学者の内山節氏、僧侶の藤田一照氏、山伏の星野文紘氏という恒例のメンバーによって「土地に生きる知恵のいのち」というテーマを取り上げ、「スマートで科学的な知性」と「伝統的でエコロジカルな知性」をどのように調停し、未来をひらいていくか、という問題を話し合います。昨年続き、人類学者の石倉敏明氏に、司会いただきます。

開催日時

2023年5月13日(土)  
13:30~16:00(13:00開場)

開場後、和太鼓演奏家原田嘉子による演奏有

開催場所

先着100名様

いでは文化記念館

山形県鶴岡市羽黒町手向院主南72

Tel:0235-62-4727

お申込み

電話・FAX・メールのいずれから

Tel/Fax 0235-62-2128  
e-mail tougekou@atlas.plala.or.jp

①お名前 ②参加人数 ③住所 ④電話番号  
をご明記の上、上記までお申込みください。

参加費:お一人様 ¥3,000

【事務局】手向地区地域活動センター  
(手向ふるさとセンター)

〒997-0211 山形県鶴岡市羽黒町手向黒沢31-2

オンライン参加も可能です

詳細は以下のサイトをご覧ください。

<https://chie-inochi.peatix.com/>



会場  
いでは文化記念館



オープニングアクト(和太鼓)

原田嘉子 YOSHIKO HARADA  
Nipponの鼓動表現者

広島県福山市出身。東京国際和太鼓コンテスト大太鼓部門で優秀賞を受賞。ソロコンサートをはじめ、ジャズ、クラシック、舞踏、絵画等、様々なアーティストともコラボレーション。さらに自由に奥深い和太鼓サウンドを追求しながら、国内外へと積極的に活動を展開中。  
<https://www.wadaiko-yoshiko.com>



内田樹 TATSURU UCHIDA 思想家/武道家

1950年東京生まれ。東京大学文学部仏文学科卒。東京都立大学人文科学研究科博士課程中退。神戸女学院大学名誉教授。神戸で武道と哲学研究のための学塾凱風館を主宰。合気道七段。著書に『ためらいの倫理学』、『レヴィナスと愛の現象学』、『先生はえらい』など。第六回小林秀雄賞(『私版・ユダヤ文化論』)、2010年新書大賞(『日本辺境論』)、第三回伊丹十三賞を受賞。近著に『レヴィナスの時間論』(新教出版社)、『複雑化の教育論』(東洋館出版社)、『夜明け前(が一番暗い)』(朝日新聞出版)など。

内山節 UCHIYAMA TAKASHI 哲学者/作家

1950年東京都生まれ。1970年代から東京と群馬県・上野村を往復して暮らしながら、存在論、労働存在論、自然哲学、時間存在論を軸に哲学の研究をすすめる。NPO法人「森づくりフォーラム」代表理事。金峯山寺名誉正大先達。2004年~2009年立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科特任教授、その後、東京大学大学院人文社会系研究所兼任講師、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授などを歴任。著書に『共同体の基礎理論』(農文協)、『怯えの時代』(新潮選書)、『清浄なる精神』(信濃毎日新聞社)、『修験道という生き方』(新潮選書)、『民主主義を問いなおす』(農文協)など多数。



藤田一照 ISSHO FUJITA 曹洞宗僧侶

曹洞宗僧侶。1954年愛媛県生まれ。東京大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程を中途退学し、曹洞宗の禪道場安泰寺に入山、曹洞宗僧侶となる。1987年よりアメリカ合衆国マサチューセッツ州西部にある禅堂に住持として渡米、近隣の大学や仏教瞑想センターでも禅の講義や坐禅指導を行う。2005年に帰国。2010年から2018年まで、サンフランシスコにある曹洞宗国際センター所長。神奈川県葉山町にて慣例に捉われない独自の坐禅会を主宰している。Facebook上で松嶺学舎一照塾を主宰。  
<https://www.facebook.com/isshojuku>

星野文紘 FUMIHIRO HOSHINO 羽黒山伏

1946年山形県出羽三山羽黒山宿坊「大聖坊」に生まれる。1971年「大聖坊」十三代目を継承。2007年には出羽三山の最高の修行である「冬の峰百日行」の松聖を務める。出羽三山神社責任役員理事、NPO法人公益のふるさと創り鶴岡理事。これまで1000人以上の行者を先導しながら、日本各地の山伏復活にも尽力。海外とも交流を重ねる。全国各地で山伏の知恵を活かすべく生き方のトーク活動を「羽黒山伏の辻説法」として展開している。著書に『感じるままに生きなさい』(さくら舎)、『答えは自分の感じている中にある』(家の光協会)、『野性の力を取り戻せ~羽黒山伏に学ぶ答えがない「問い」に向き合う智慧~』(日本能率協会マネジメントセンター/共著)がある。



進行 石倉敏明 TOSHIKI ISHIKURA 人類学者

1974年東京生まれ。芸術人類学者。秋田公立美術大学アーツ&ルーツ専攻准教授。シッキム、ダージリン、ネパール、東北日本等でフィールド調査を行い、環太平洋の比較神話学、複数種をめぐる芸術人類学、アーティストとの共同制作をおこなう。2019年、第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際芸術祭日本館展示「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」に参加。共著書に『野生めぐり 列島神話の源流に触れる12の旅』、『Lexicon 現代人類学』、『モア・ザン・ヒューマン マルチスピーシーズ人類学と環境人類学』など。

主催:「日本の聖地巡礼とコミュニティー」実行委員会

共催:鶴岡市/手向地区自治振興会

後援:出羽三山神社/羽黒町観光協会/出羽三山魅力発信協議会/松聖会/  
出羽三山精進料理プロジェクト/ヒューマンポテンシャルラボ